

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	－	－	－
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・例年4月は外商売上が年度末の駆け込み需要の反動で低迷するが、今年は件数、売上共に前年を上回った。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大により、巣籠り需要が再拡大しており、その恩恵を受けている状況である。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は3か月前と比較すると増加しているが、一昨年と比較すると減少しており、経営状況が悪いというのは変わっていない。しかし、直近の自粛要請による影響は、前年と比べると小さくなっている。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大による外出自粛の影響で、家電製品全般の売上が伸びている。
	○	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・通信業界に限って言えば、値下げ競争の影響で市場は活性化している。
	○	設計事務所（所長）	それ以外	・古い建物が取り壊され、整地されている土地が増加している。新しい建物の建築準備に入っているものと思われ、景気回復の兆しを感じる。
	□	商店街（事務局長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が変異株の拡大に伴い第4波として猛威を振るい、4都府県では緊急事態宣言が発出された。全国的にワクチン接種も進んでおらず、消費回復は今秋以降へずれ込むことが予想される。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による小売への需要拡大が依然として継続している。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・外食の自粛はいまだに継続傾向にある。前年より来客数は減少しているが、客単価は高く推移しており、結果として売上高は前年と同等か、それを上回る水準で推移している。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・売上高は前年と比較すると増加しているが、一昨年と比較すると減少している。来客数の減少傾向は変わっていない。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・当地域でも新型コロナウイルスの影響がかなり出ている。状況は3か月前と余り変わらないが、まん延防止等重点措置の影響で、客は全くおらず、先行きは不透明である。
	□	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・直近の来客数に大きな変化はみられない。都市部での緊急事態宣言の発出によって、景気がどのような動きになるのか予測が難しい。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・来客数は依然として減少傾向にあり、状況は悪化したままである。
	□	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・依然として新型コロナウイルスの影響が大きいと感じる。政府の施策は、新型コロナウイルスの完全な収束を優先するのか、東京オリンピックの開催を優先するのか分からないため、多くの人は現在の状況にへき易していると感じる。今後、しばらくは旅行や飲食における需要回復は見込めないという点で、先行きも余り良くない。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・現在は昼夜問わず人の動きが少ない状況である。特に夜間は、若者が友達同士で飲み食いするくらいで、サラリーマンや中高年の姿は見なくなっている。また、観光客が少なく、ホテルの利用状況も悪いため、前年と比べると人出は半分以下である。
	□	競輪競馬（マネージャー）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で、営業自粛や入場制限等が継続しており、利用者数は減少傾向にある。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第4波が襲来しており、近県においても感染者数が増加している。商店街では、特に夜間の飲食店に客がおらず、人々が自粛している状態が続いている。

▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・当地域でも新型コロナウイルスのクラスターが発生し、まん延防止等重点措置が適用されたため、繁華街の店舗は閉まっており人通りも全くない状況である。
▲	百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・1月は都市部における2度目の緊急事態宣言の発出もあり来客数が落ち込んだが、月末に向け回復傾向にあった。しかし、4月は県内の警戒レベルの引上げや全国的な新規感染者数急増の影響を受け、再び来客数が減少するなか、3度目の緊急事態宣言の発出で更に客の自粛傾向が強まっている。
▲	百貨店（販売促進）	来客数の動き	・当社は現在改装工事のため来客数は前年と比べ減少している。加えて、当地域におけるまん延防止等重点措置の適用に伴い更に厳しくなっている。
▲	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの特需から1年が経過し、来客数の減少が継続している。客単価の伸びもなくなってきている。
▲	コンビニ（商品担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークもまん延防止等重点措置の適用で、繁華街やレジャー等に需要がない状況である。
▲	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・当地域でも新型コロナウイルスの感染者が日々増加傾向にあり、厳しい状況が続いている。
▲	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上は前年比で増加しているが、新型コロナウイルス発生前の前々年の水準と比較すると30%以上減少している。感染者数の増加に伴い、来客数が減少している。
▲	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・全国で新型コロナウイルス新規感染者数が増加しているという報道が多くなり、買物の必要がある客が来店するのみであり、全体の来客数は減少している。
▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・例年4月は売上が落ち込むが、今年は前年と比べて減少幅が大きい。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注状況は、新型コロナウイルスの影響で減少した前年並みの低い水準で推移している。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの終息はまだ遠く、新規感染者数の増加に比例して客足が遠のいている。
▲	旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・観光業界においては、Go To Travelキャンペーン再開のめどが全く立たず、観光支援事業においても先行きが見通せない状況である。都市部での緊急事態宣言の発出により、店頭への来店及びオンラインによる予約も減少し、更にキャンセルが続出している。
▲	通信会社（社員）	お客様の様子	・以前よりも人出が鈍くなっていると感じる。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・例年4月の売上水準には程遠い状況である。新型コロナウイルスの報道の影響を受け、客が増減している状況である。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・当地域でも新型コロナウイルスの感染者数が増加しており、客の行動も慎重になってきている。
×	商店街（代表者）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の適用で時短営業を強いられており、売上高は前年より少し増加しているが、前々年の同時期の30～40%程度の水準であり、厳しい状況が続いている。
×	商店街（代表者）	お客様の様子	・ワクチン接種の遅れもあり、全国的にコロナ禍の影響は止まらず、巣籠り需要関連や一部の業種を除けば、景気は更に落ち込む可能性が高い。同時に、消費者行動もますますネット利用のウエイトが増しており、時代が変化するなかで、既存の発想で売上が回復できるとは到底考えられない。
×	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数の急激な増加で、外食需要が激減したことにより飲食店への納品が減少し、今後も事業を継続することができるか毎日不安である。
×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者に関する報道があるたびに、人々の警戒感や自粛傾向が強まっている。特に当地域では、まん延防止等重点措置の適用後は、20時以降の来客数の減少が際立っている。

	×	その他小売 [ショッピング センター] (副 支配人)	来客数の動き	・最近の新型コロナウイルス感染者数の急増を受けて、人 出が急激に落ち込んでいる。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・当地域では、新型コロナウイルスの感染者数が減少し、 規制も徐々に緩和されつつあったところにクラスターが発 生し、前年と同じ状況が繰り返されている。引き続き我慢 が必要であると感じる。
	×	観光型旅館 (経 営者)	来客数の動き	・当地域では、まん延防止等重点措置が適用されるほど新 型コロナウイルスの感染が再拡大している。都市部でも緊 急事態宣言が再度発出される等、改善の端緒が全くみえな い状況である。
企業 動向 関連	◎	—	—	—
(四国)	○	電気機械器具製 造業 (経理)	受注量や販売量 の動き	・一過性の特需に近いものであるが、新型コロナウイルス のワクチンを保管する保冷庫の需要が伸びており、一部の 事業体で受注量や販売量が改善している。
	○	輸送業 (経理)	受注量や販売量 の動き	・海外向け、特に中国向けの原料の輸出が好調である。国 内向けの出荷量については横ばいの状態である。
	□	農林水産業 (職 員)	受注価格や販売 価格の動き	・卸売価格は前年並みで推移している。前年はコロナ禍で 業務野菜やメロン、花きなどが例年の60～80%で推移して いたことを踏まえると、新型コロナウイルスの第4波の影 響は大きい。
	□	木材木製品製造 業 (営業部長)	受注量や販売量 の動き	・受注数は回復傾向にあるが、緊急事態宣言が発出された 影響がまだみえてこない。受注状況に必ず悪い影響を与え ることが予想されるため、今後の推移を注視している。
	□	化学工業 (所 長)	受注量や販売量 の動き	・前年同時期と比較すると取扱量は減少している。
	□	一般機械器具製 造業 (経理担 当)	受注量や販売量 の動き	・本格的な需要回復時期は不透明な状況が続いている。
	□	電気機械器具製 造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・コロナ禍で、最先端技術を扱う企業を含め、LED関連 企業の利益が落ち込んでいる。新型コロナウイルスによる 影響を受けていない企業はなく、各企業の努力により現状 を維持している状況であると考えている。
	□	建設業 (経営 者)	取引先の様子	・新年度が始まったが、手持ちの仕事量は例年どおり少な い状況である。前年は、業界全般の受注状況や売上が堅調 であったため、現在はやや余裕を持った経営ができてい る。しかしながら、コロナ禍が収束傾向にないことから、 特に状況は変わらないと判断している。
	□	建設業 (経営 者)	受注量や販売量 の動き	・依然として民間工事や公共事業の受注量が減少してい る。
	□	通信業 (企画・ 売上管理)	受注量や販売量 の動き	・都市部で緊急事態宣言が発出されたことを受け、映画や レジャー関係の客はCMを控えたり、期間を変更する影響 があったが、3か月前からそのスタンスは変わっていない。
	□	金融業 (副支店 長)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う、まん延防止等 重点措置の適用や緊急事態宣言の発出により、足元の消費 動向は鈍っている。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染が再拡大傾向にあるものの、 まだ業務に影響は出ておらず、売上の変化はみられていな い。
	▲	繊維工業 (経営 者)	受注量や販売量 の動き	・まん延防止等重点措置の適用と緊急事態宣言の発出に よって、受注量が急速に減少している。特に都市部の小売 店とショッピングモール内の小売店は時短営業や休業する 店が増加している。
	▲	鉄鋼業 (総務部 長)	受注量や販売量 の動き	・仕事の受注量が減少しており、また受注残も少ない状況 であるため、臨時休業による生産調整を行っている状況で ある。
	▲	輸送業 (経営 者)	それ以外	・緊急事態宣言の発出は必要な措置であったが、景気は必 ず悪化する。

	▲	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス変異株の流行を受け、まん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言が発出され、それが消費者の行動自粛や消費の低迷につながっている。一旦は増加に転じ回復の兆しが見え始めた取扱物量についても、ここに来て再び低調に推移しており、企業向けの商業物流分野においては、前年実績を下回る厳しい状況が続いている。それに反して、ネット通販等の非対面型ビジネスの需要は堅調であり、個人向け宅配便需要は非常に好調である。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(四国)	□	職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・繁華街で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、その影響で人の動きが止まり、年度末の需要がさほど伸びしなかった。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・紹介予定派遣の件数が減少しており、企業が雇用のリスクを避けている。
	▲	人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、公共施設の閉館や飲食店の時短営業などの影響で、人の動きが鈍くなっている。集客施設だけでなく、関連した取引業者にも影響が出ており、業種による景気の格差が出ている。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・一部の業種で改善はみられるものの、サービス業関係の仕事の求人が全くない状況で、全体では悪化傾向にある。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・広告業界全般が新型コロナウイルスの影響を受けており、年間予算が絞られてきていることから、今年度の業績は下方予測をしている。
	▲	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・窓口での相談件数が前年同月と比較して増加している。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・緊急事態宣言の発出による学生の就職活動への影響が懸念される。
	×	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・当地域では、まん延防止等重点措置の適用で、飲食店や観光サービス関連業界が時短や休業を余儀なくされ、周辺業界を含め売上が大幅に下がっており、やむなく人員削減を行っている企業も出ている。地域外からの人の流れも減少しており、当地域全体で経済的ダメージを受けている状況である。